

本資料は、環境審議会で計画の答申時(R4.1.21)に頂いた付帯意見を踏まえ、関連計画で定めた目標値の反映について、千葉市環境基本計画に溶け込ませる形(一部注釈等は見え消し)をお示しするものです。

千葉市環境基本計画 別冊

2022年3月

1. 目指す5つの「環境の柱」、基本目標の達成に向けた指標と取組み

本編では、本計画の5つの「環境の柱」、「その進捗を把握するための指標（項目、目標値、達成年度）」、「環境の柱ごとの基本目標」などについて、説明しました。

この別冊では、加えて、「基本目標の進捗を把握するための指標（項目、目標値、達成年度）」、「指標設定の考え方」を記載し、計画全体の指標設定状況を説明しています。各基本目標に対しては、それぞれ1～数項目ずつの指標を設定しました。目標年度は原則として、本計画の終期である2032年度としていますが、他計画で別途目標値を設定している項目については、その計画における目標年度に合わせています。

また、基本目標ごとの「施策の方向性」と「主な施策・主な関連計画等^{*}」についても記載しています。

^{*} 主な関連計画等の名称は計画策定時点のものとなります。

環境の柱1の達成に向けた指標及び取組み

環境の柱1：地球温暖化対策を推進し、気候危機に立ち向かう

- └ 基本目標1-1 二酸化炭素排出削減に向けた「緩和策」を推進する
- └ 基本目標1-2 気候変動による影響への「適応策」を推進する

環境の柱1の達成状況を示す指標には、本市において市民・事業者・行政の地球温暖化対策がどれだけ効果を挙げられたかを端的に示す数値として、「温室効果ガス排出量」を設定しました。

基本目標1-1では、エネルギーの出入口の指標を設定することとし、「最終エネルギー消費量」と、温室効果ガスを排出しない「再生可能エネルギー導入量」を、それぞれ設定しました。この他、脱炭素社会に向けたエネルギーの創出・消費を測る重要な要素であり、イメージしやすいものとして、「Nearly ZEHレベル以上の住宅割合・ZEB Readyレベル以上の建築物割合」、「ZEV（Zero Emission Vehicle = 排出ガスが発生しない車両）の導入台数」、「省エネ家電に関する市民意識の割合」を指標として設定しました。

基本目標1-2では、気候危機やその影響について理解し、具体的な行動につなげて備えることが重要です。その代表的なものとして、気候危機に関連して多発する自然災害や熱中症に対して「自然災害に備えている市民の割合」と、「熱中症に関する情報源を理解している市民の割合」を指標として設定し、市民アンケートに基づいて把握することとしました。

【環境の柱及び基本目標の指標】

	項目名	単位	現在値	目標値
環境の柱1の指標	温室効果ガス排出量	万 t-CO ₂ /年	1,575 (2016年度)	1,012 (2030年度) ^{**4}
	基本目標1-1の指標			
	最終エネルギー消費量	PJ	188 (2016年度)	152 (2030年度)
	再生可能エネルギー導入量	MW	177 (2021年度)	981 (2030年度)

	項目名	単位	現在値	目標値
基本目標 1-1の 指標	Nearly ZEHレベル以上の住宅割合、 ZEB Readyレベル以上の建築物割合	%	ZEH 0.1 ZEB 0.02 (2020年度)	Nearly ZEH 14.3 ZEB Ready 22.5 (2030年度) ^{※4}
	ZEVの導入台数	台	2,070 (2020年度)	84,000 (2030年度)
	省エネ型家電に関する 市民意識の割合	%	未実施	向上 (2032年度)
基本目標 1-2の 指標	自然災害に備えている 市民の割合	%	未実施	向上 (2032年度)
	熱中症に関する 情報源を理解している 市民の割合	%	未実施	向上 (2032年度)

※4 今後新たに策定予定の「千葉市地球温暖化対策実行計画」で、具体的な数値を設定します。

環境の柱2の達成に向けた指標及び取組み

環境の柱2：3Rの取組みを推進し、循環型社会の構築を目指す

- └ 基本目標2-1 リデュース、リユースを推進する
- └ 基本目標2-2 リサイクルを推進する
- └ 基本目標2-3 廃棄物を適正に処理する

環境の柱2の達成状況を示す指標には、廃棄物処理の「入口」と「出口」を測る指標として、「一般廃棄物の総排出量」と「一般廃棄物最終処分量」を設定しました。排出量については、人口減少社会における廃棄物の削減状況を正確に把握するため、総量ではなく、1人当たりの単位としています。（なお、最終処分量は、処分場の容量確保が政策的に重要であるため、1人当たりではなく総量で見えていきます。）

基本目標2-1では、リデュース、リユースの取組みが進むことで減少に向かうはずの値である、「一般廃棄物焼却処理量」と、「産業廃棄物排出量」を指標にすることとしました。

基本目標2-2では、一般廃棄物、産業廃棄物のそれぞれについて、「再生利用率」と「最終処分量」を指標とし、廃棄物がどれだけリサイクルに回っているか見ていくこととしました。

基本目標2-3では、一般廃棄物については、ごみステーションにおける適正排出への市民理解の実態を示す指標として「不適正排出ごみ警告シール貼付件数」を、産業廃棄物については、排出事業者責任の徹底及び不適正処理防止の状況の目安として「電子マニフェスト*普及率」を、それぞれ把握していくこととしました。

【環境の柱及び基本目標の指標】

	項目名	単位	現在値	目標値
環境の柱2の指標	市民1人1日当たりの一般廃棄物総排出量	g	969 (2019年度)	850 (2032年度) ^{※4}
	一般廃棄物最終処分量	t	18,400 (2019年度)	8,600 (2032年度) ^{※2}
基本目標2-1の指標	一般廃棄物焼却処理量	t	243,000 (2019年度)	196,000 (2032年度) ^{※2}
	産業廃棄物排出量	t	4,005,000 (2019年度)	減少 (2032年度)
基本目標2-2の指標	一般廃棄物再生利用率	%	31.6 (2019年度)	38 (2032年度) ^{※2}

* 電子マニフェスト：産業廃棄物の排出事業者が、収集運搬業者及び処分業者からの情報を帳票で自ら把握して行政に報告する制度をマニフェスト制度という。これを電子化した電子マニフェストは、廃棄物処理法の規定により環境大臣が指定した情報処理センターが通知や情報の保存を行うため、排出、収集、処分の3者が常にマニフェスト情報を閲覧・監視することにより、不適切なマニフェストの登録・報告を防止できる。

		項目名	単位	現在値	目標値
基本目標 2-2の 指標		産業廃棄物再生利用率	%	49.7 (2019年度)	向上 (2032年度)
		(再掲) 一般廃棄物最終処分量	t	18,400 (2019年度)	8,600 (2032年度) ^{※2}
		産業廃棄物最終処分量	t	49,100 (2019年度)	減少 (2032年度)
基本目標 2-3の 指標		不適正排出ごみ 警告シール貼付件数	件	199,846 (2020年度)	減少 (2032年度)
		電子マニフェスト普及 率	%	61.3 (2019年度)	向上 (2032年度)

※1 現行の「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の目標値（1,037t）を達成済みであり、2022年度に策定予定の次期の同計画で、さらなる削減目標を設定します。

※2 現行の「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の目標値によって設定しています。2022年度に策定予定の次期の同計画の内容によって、今後変更する可能性があります。

環境の柱3の達成に向けた指標及び取組み

環境の柱3：自然と調和・共存し、緑と水辺の良好で多様な環境を次世代に引き継ぐ

- └ 基本目標3-1 生物多様性に富んだ生態系を保全する
- └ 基本目標3-2 豊かな緑と水辺を保全・活用する
- └ 基本目標3-3 地域の自然・文化が育む景観を保全・創造する
- └ 基本目標3-4 自然とふれあう機会を創出する

環境の柱3の達成状況を全体的に把握するためには、自然との調和・共存している状況を、量だけでなく質の面からも把握することが重要であること、また、市民の意識を見ていくことが重要と考え、「生物多様性について理解している市民の割合」と「緑と水辺が豊かだと感じる市民の割合」を指標として設定し、市民アンケートに基づいて把握することとしました。

基本目標3-1では、定期的に調査している「貴重な生物の生息量」や、多様な生物がすむ場所である緑被地の割合として「緑被率」、保全を図っている「谷津田・里山等の保全地区数」などを通じ、生物の生息量及び生息拠点を把握することとしたほか、特定外来生物*への対応状況を示す指標として「特定外来生物の防除数」を設定しました。

基本目標3-2では、市民の意識を見るため「緑と水辺が豊かだと感じる市民の割合」を、実際に生物が生息している空間に関する数値として「緑被率」と「多自然護岸整備河川*等の延長」を指標として設定し、見ていくこととしました。

基本目標3-3では、本市の恵まれた自然景観の代表例である「谷津田・里山等の保全地区数」により、景観の保全状況を把握することとしました。

基本目標3-4では、市民が自然とふれあう場として市民農園、公園、自然観察会などを取り上げ、これらの箇所数や利用者数などを見ることで、自然との触れ合いの状況を把握することとしました。

【環境の柱及び基本目標の指標】

	項目名	単位	現在値	目標値
環境の 柱3の指標	生物多様性について 理解している市民の割合	%	未実施 ^{※1}	100 (2032年度)
	緑と水辺が豊かだと 感じる市民の割合	%	57.8 ^{※2} (2018年度)	72.5 ^{※2} (2032年度)
基本目標 3-1の 指標	貴重な生物の生息量 ^{※3} ^{※4}	匹、個	1,632匹、 2,089個 (2021年度)	増加 ^{※5} (2032年度)
	緑被率	%	48.6 (2020年度)	維持(減少させない) (2032年度)
	谷津田・里山等の 保全地区数 ^{※4}	地区数	32 ^{※6} ^{※4} (2019年度)	維持(減少させない) (2032年度)

	項目名	単位	現在値	目標値
基本目標 3-1の 指標	(再掲) 生物多様性について 理解している市民の割合	%	未実施 ^{※1}	100 (2032年度)
	特定外来生物の防除数 (計画期間での累計)	頭	163 (2020年度)	2,530 (2032年度)
基本目標 3-2の 指標	(再掲) 緑と水辺が豊かだと 感じる市民の割合	%	57.8 ^{※2} (2018年度)	72.5 ^{※2} (2032年度)
	(再掲) 緑被率	%	48.6 (2020年度)	維持(減少させない) (2032年度)
	多自然護岸整備河川 等の延長(累計)	m	13,644 (2019年度)	17,449 (2029年度)
基本目標 3-3の 指標	(再掲) 谷津田・里山等の 保全地区数 ^{※4}	地区数	32 ^{※6※4} (2019年度)	維持(減少させない) (2032年度)
基本目標 3-4の 指標	市民農園の 箇所数・利用者数	か所、人	36か所、 1,372人 (2019年度)	36か所、1,500人 (2032年度)
	大規模な公園の利用者数 ^{※4}	万人	297 (2019年度)	321 (2032年度)
	自然観察会等の 参加者数・開催数 (計画期間中の総数)	回、人	6回、95人 (2020年度)	154回、2,695人 (2022~2032年度)

※1 今後実施する市民アンケートによって、生物多様性について理解している市民の割合を把握します。

※2 ~~2022年度に策定予定の次期の「緑と水辺のまちづくりプラン」の中で具体的な数値を設定します。~~

※2 「緑が豊かだと感じる市民の割合」(現在値75.3%、目標値85%)、「水辺が魅力的だと感じる市民の割合」(現在値40.2%、目標値60%)の平均です。

※3 本市で生息数を調査しているヘイケボタル(匹)、ニホンアカガエル(卵塊数、個)です。

※4 ~~2022年度に策定予定の次期の「水環境保全計画」「緑と水辺のまちづくりプラン」の内容等によって、今後変更する可能性があります。~~

※5 ~~目標値は過去5年の平均を維持する数値としたため、ニホンアカガエルは生息数調査で発見された卵塊数が多かった直近値よりも目標値が低くなっています。~~

※6※4 内訳は、谷津田等の保全地区(14)、里山保全地区(4)、特別緑地保全地区(13)、近郊緑地保全区域・近郊緑地特別保全地区(1)となっています。

数値誤り判明のため併せて修正。
(誤)2020年度・3,006千人

環境目標値

2) 水質の環境目標値

----- (ここから P. 27) -----

イ 生活環境の保全に関する項目

水系	水域区分 (評価地点)	BOD (mg/L)	溶存酸素 (mg/L)	大腸菌群数 (CFU/100mL)	全亜鉛 (mg/L)	ノニルフェノール (mg/L)	LAS (mg/L)
都川	都川上流(高根橋)	3 以下	7.5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	都川中流(青柳橋)	3 以下	7.5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	都川下流(都橋)	5 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	葭川下流(日本橋)	5 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	支線都川(新都川橋)	3 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	坂月川(辺田前橋)	5 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	葭川上流 (源町 407 番地地先)	5 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
鹿島川	鹿島川上流(下大和田町 1146 番地地先)	2 以下	7.5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	鹿島川上流(平川橋)	2 以下	7.5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	鹿島川下流(下泉橋)	2 以下	7.5 以上	300 以下	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
花見川	花見川上流(花島橋)	2 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	勝田川			-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	花見川下流(新花見川橋)	5 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
その他 の水域	村田川(高本谷橋)	2 以下	7.5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	浜田川(下八坂橋)	5 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	花園川[草野水路] (高洲橋)	3 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	浜野川(浜野橋)	3 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下
	生実川(平成橋)	3 以下	5 以上	-	0.03 以下	0.002 以下	0.050 以下

※BOD の達成状況は日間平均値の 75%値で評価します。

水系	水域区分 (評価地点)	COD (mg/L)	溶存酸素 (mg/L)	糞便性 大腸菌群数 (MPN/100mL)	全窒素 (mg/L)	全りん (mg/L)	全亜鉛 (mg/L)	ノニルフェノール (mg/L)	LAS (mg/L)	低層 DO (mg/L)
海 域	千葉港 (千葉コン ビナート湾 内)	3 以下	5 以上	-	1.0 以下	0.09 以下	0.02 以下	0.001 以下	0.01 以下	2 以下
	いなげの浜 ～幕張の浜 (幕張の浜 地先)	3 以下	5 以上	100 以下	0.6 以下	0.05 以下	0.02 以下	0.001 以下	0.01 以下	3 以下